

7月31日に「Moritaキャリアプランニング」の森田ひとみ氏を講師にお招きしてビジネスマナー研修が行われました。平成会では、今年度ビジネスマナーの習得を課題としており、5月の「初級編」に続いての研修会となりました。

ヘルパーは外部の方と接する機会が多い部署ですが、ビジネスマナーに自信が持てず「これで良いのだろうか？」と思うことが多くありました。

名刺交換、正しい敬語に言い換える敬語トレーニング、模擬電話を使っての電話対応のロールプレイなど、一つひとつ「理由」を示しながらわかりやすく教えて頂きました。その場で注意点や良かった部分をフィードバックして下さり、楽しみながら正しいマナーを学ぶことができました。

研修の中で森田先生は「ビジネスマナーとは相手への『思いやり』を心構える事」と言われました。お客様をいつでもお迎えできる環境に配慮すること、言葉と表情は柔らかな心を込めることなど・・・これはビジネスマナーだけではなく、我々が普段行っている支援にも共通することなのでは？と感じました。

平成会の理念に「感性を養い、思いやり、優しさを育む」とあります。「自分だったらどうだろう？」と常に相手の気持ちになって考え、謙虚に相手を敬う気持ちを忘れずに、支援を行いたいと思います。



訪問介護員
山本一成

広島国際学院大学情報デザイン学科の学生の方が「あおぞらぱん屋さん」のアルバイトに来られたことが縁で、所属するゼミの皆さんと交流が始まりました。「販促グッズとしての効果や、お客様の反応等の検証」というマーケティング研究に協力して頂けないかという依頼があり、ゼミの皆さんに協力しながら、一緒にお店を盛り上げていく試みをスタートさせました。

その一つが「缶バッチ」を製作してお客様にプレゼントするという取り組みです。ぱん屋さんには並ぶ色々なパンを写真に撮り、缶バッチを作っていました。『千円以上パンをご購入のお客様に缶バッチをプレゼント！』と店内でお知らせすると千円以上になる様に考えてパンを購入して下さる方や、せっかくだからもう一つとパンを追加して下さる方もいらっしゃいました。

また、「ドリンクメニュー表」や「のぼり」の製作にも取り組んで頂きました。あおぞらぱんさんのイメージに合うデザインを学生の皆さんと一緒に考え、何度も作り直しながら作品を完成させました。「のぼり」は、あおぞらぱんさん一押しのパッケージが全面にデザインされ、遠目にも迫力満点です。

現在は職員の名札と一緒に製作中です。今回の取り組みを通して、わたしたちだけでは思いっきりできなかった斬新なアイデアが生まれ、販促グッズとして形にしていけることができました。



パンの缶バッチ

店長 塔迫里美

平成会では、若い職員を中心とした「人材確保委員会」で職員の採用活動を行っています。

今年度はコロナ禍での採用活動の為、対面で行っていたガイダンスや見学会、採用試験を全てウェブで行っています。どうやったらウェブ上で平成会の事を知ってもらえるかメンバーで話し合い、各事業所の活動の様子を動画で作成したり、入所施設の様子を生配信で紹介したり、実際に施設見学をしているような臨場感を演出する工夫をしました。

採用試験は緊急事態宣言中であつた為、ウェブでの面接、パソコンでの一般教養試験、作文と、初めてのことで不安でしたが、事前に接続確認し、学生の方にも事前に説明を行っていたためトラブルなく採用試験を行うことができました。

学生の方からは「何社か採用試験を受けましたが、こんなに丁寧に対応してくれたところは初めてです」と嬉しいお言葉を頂きました。



支援員 平賀真弓

また、見学会では「職員がいきいきと働いていて、利用者も笑顔で過ごしている。アットホームな印象」学校の先生から自分が成長できる場所だと勧めていた」等、平成会の印象を聞かせて頂きました。

若い職員の感性を生かし、新しい出会いを求めて、これからも採用活動に力を入れていきたいと思っています。

不変の関係

私事、本年4月より西の池学園の施設長に就任いたしました。微力ながら福祉の発展に精進する所存でございますので、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

この記事を書いている今は東京オリンピックの真っ最中。コロナ禍での開催に疑問の声があることも事実ですが、オリンピックの競技にはつい見入ってしまいます。観客のいない寂しい大会になるのかと思っていました。アスリートの熱気とお互いをたたえ合う姿に、無観客であることを忘れさせる感動を抱きました。ただ、今回のオリンピックはやはりどこか違う、選手同士が肩を抱きあう姿を見て、何かいい意味の違和感を覚え、何故だろうと考えました。そして昨年のコロナウイルス感染拡大から、私たちはソーシャルディスタンスと称して人と触れ合うことを控えてきたからだと感じました。肩を抱き、互いにたたえ合う姿を見て、余計に感動が増したのだと思います。

私は平成5年に西の池学園に入職し、今年で27年目となります。途中、通所事業所、相談支援業務を経験し、昨年度12年ぶりに西の池学園に戻ってまいりました。利用者の皆様は私の顔をみるなり、昔と変わらず受け入れ接してくれました。このコロナ禍で出来ないことが増え、会いたい人と会えず、「新たな生活」を強いられる中、私と利用者の皆様との関係は昔と何一つ変わらず、いつもそばで触れ合い、寄り添うことができるのは、何気ないことのように実はとても尊いことであることに、オリンピックを通じて改めて気づかされた次第です。

障害がある方々は守られる立場と思われがちですが、人として向き合い心を通わせ、お互いを認め合うことに障害の有無は関係ありません。利用者の方には、27年間温かく私を受け入れ、これまで育てて頂いたと深く感謝しております。この不変の関係が未永く保てるよう、初心のままに努めてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

社会福祉法人 平成会

住所 東広島市高屋町宮領 178-2

TEL : (082) 434-0405

FAX : (082) 434-5599

Mail : heiseikai@nishinoike.or.jp

編集 (社福) 平成会 広報部

発行者 (社福) 平成会理事長 赤坂 秀則



第98号 (令和3年10月1日)



西の池学園「自治会夏まつり」の様子

(2面に紹介記事)

西の池学園 施設長 浅野 正道